

## 試験経過記録（その2）

（様式 4）

日向営林署

（2）クヌギ切断処理木成長量調査

クヌギ樹高成長促進を目的に、地上5cm、10cm、20cmの3通りの切断を昭和59年度に実行し、ぼう芽状況を調査した結果は表-2のとおりである。

表-2

切断箇所	ぼう芽 本数	切断功程	成長量						備 考
			60年度	61年度	62年度	63年度	総成長量	平均成長量	
地上5cm	32本	9.8人	90	(32) 29	(22) 42	(23) 19	180	36	切断本数は各20本実行
10cm	30	8.4	94	(30) 25	(23) 56	(25) 19	194	39	
20cm	37	7.0	104	(37) 25	(32) 51	(32) 24	204	41	

（注）（ ）の数字は、測定ぼう芽本数

（3）被害木調査

ア. 各種被害調査表（昭57～63） 表-3

樹種	調査本数	寒風害	虫害	兔の害	鼠の害	乾燥害	切害	鹿の害	猪の害	計	枯損率
ヒノキ1条	48			(7)		(1)				(8)	0
ヒノキ2条	46	(2)	1	(4)		1				(6) 2	4
クヌギ1条	48		(2) 2	(2) 2			(2)		1	(6) 5	10
クヌギ2条	46	(7) 5	(1)	(1) 1			(5)			(14) 6	13

（注）（ ）は、被害を受けたが再生したもの。 昭和63年度新規被害は、切損1本であったが再生している。

イ. 表-3の被害木の中から再生したものを、昭和63年2月調査した樹高成長は、表-4のとおりで再生木は健全木に比しヒノキ87%、クヌギ67%の樹高成長を示している。

# 試験経過記録 (その3)

(様式 4)

日向営林署

表-4 健全木と再生木の樹高比較表

樹高	調査本数 (本)	健全木		再生木		計	
		本数	樹高	本数	樹高	本数	樹高
ヒノキ	94	78	279cm	14	242	92	270
クヌギ	92	62	179	19	120	81	167

※昭和63年度は、健全木、再生木の成長差が少ないので調査省略

## 4. 更新及び保育の工期

作業種別の工期は、表-5とおりでである。

表-5

年度	57		58		59		60		61		62		63		備考
	作業法	工期	作業法	工期	作業法	工期	作業法	工期	作業法	工期	作業法	工期	作業法	工期	
地拵	散布	13.6													
植付	普通植	21.2													
下刈	全刈	4.7	筋刈	6.6	筋刈	5.9	筋刈	5.6	筋刈	6.0	筋刈	6.1	筋刈	5.9	

# 状 況 写 真

区分 指示

日向 営林署

(様式6)



ヒノキ・クヌギの生育状況

クヌギ被害木の再生状況



対照区 ヒノキの生育状況



# 状 況 写 真

区 分	指 示
-----	-----

日向 営林署

(様式6)



試 験 地 全 景 (尾 鈴 1 7 ぞ)

ヒノキ・クヌギ混交状況



技術開発課題報告書

(元年度実施報告)

熊本営林局

課題	クヌギ混交林施業法	継続・新規別	継続	担当	計画課	開発箇所	日向営林署	昭和56年度 ～ 平成7年度
		指示・自主別	指示					
年度別実施経過		元年度実施報告			評価			
昭和56年度 1 試験地設定 (1) 場所: 尾鈴国有林17そ林小班 (2) 面積: 2.00ha (3) プロット設定 A区 ヒノキ1条, クヌギ1条の交互植栽 0.87ha B区 ヒノキ2条, クヌギ2条の交互植栽 1.13ha  昭和57～63年度 1 保育(下刈) 57年度は全刈, 58～63年度は筋刈で実施  昭和57～63年度 1 生長量調査  昭和59～63年度 1 被害調査  昭和59～63年度 1 クヌギ切断処理別生長量調査		1 生長量調査  2 被害調査  3 クヌギ切断処理別生長量調査  4 ヒノキのクヌギ混植区と単植区との生長量比較調査						
		事業費(技術開発) _____ 千円						

課題	クヌギ混交林施業法	継続・新規 継続	担 当	計 画 課	開 発 箇 所	日 向
目的	スギ(ヒノキ)とクヌギを混植、又はクヌギのぼう芽更新を行い、しいたけ原木生産と間伐等の組合せ、スギ(ヒノキ)人工林を梢置き場に活用することにより合理的なしいたけ生産技術と施業法を確立する。	指示・自主 指示				
年度別実施経過		元年度 実施報告		2年度 実施計画		備 考 (評価及び普及計画等)
		<p>1. 調査事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 成長量調査</li> <li>(2) 被害調査(野兎等)</li> <li>(3) 植生調査</li> </ul> <p>2. 保育方法の検討 下州省略</p> <p>事業費(技術開発) _____ 千円</p>		<p>1. 調査事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 成長量調査</li> <li>(2) 植生調査</li> <li>(3) 林内照度調査</li> </ul> <p>2. 保育方法 ヒノキ(クヌギ)の本数調整の要否及び時期の検討</p> <p>事業費(技術開発) _____ 千円</p>		<p>1. 評価</p> <p>ヒノキ、クヌギの成長差が拡大する状況にあり、クヌギに一部成長阻害(照度不足)が考えられる。ヒノキにはクヌギ混植による成長阻害はない。</p>

# 試験経過記録（その1）

日向営林署

（様式 4）

課 題	クヌギ混交林施業法											
<p>1. スギ、ヒノキとクヌギの混植、または、クヌギのぼう芽更新を行い、椎茸原木生産と間伐等を組み合わせ合理的な椎茸生産技術と森林施業を確立する目的で、昭和56年度に2箇所の試験地を設定し、調査を実施してきたが、試験地の一つである三方界国有林138に林小班は、野鼠の害によりクヌギが全滅状態となったので、この試験地については昭和61年度で調査を打ち切り、尾鈴国有林17そ林小班についてのみ継続調査を実施しているので、その経過について報告する。</p>												
<p>2. 試験地</p> <p>(1) 場所 尾鈴国有林17そ林小班</p> <p>(2) 面積 2.25HA</p> <p>(3) 植付 昭和57年3月</p> <p>(4) 植付方法</p> <p style="padding-left: 20px;">ア. ヒノキ1条, クヌギ1条植(3プロット)</p> <p style="padding-left: 20px;">イ. ヒノキ2条, クヌギ2条植(3プロット)</p>												
<p>3. 成長量調査等</p> <p>(1) 成長量調査は表-1のとおりで、平成2年3月の調査では41cm、クヌギ30cmの成長を示しており、植栽時に対してヒノキ約10倍、クヌギ約6倍の成長量を示している。</p>												
表-1												
樹 種	区 分	単 位	s56植栽時	s57	s58	s59	s60	s61	s62	s63	H元	成長量
ヒノキ	本 数	本	94	79	79	78	78	78	78	92	92	
	樹 高	c m	37	66	102	144	190	239	279	325	366	329
	年平均成長量	c m		29	36	42	46	49	40	46	41	41
クヌギ	本 数	本	92	85	69	68	67	65	62	81	80	
	樹 高	c m	38	57	73	97	123	149	179	192	222	184
	年平均成長量	c m		19	16	24	26	26	30	13	30	23
(注) 63年度以降調査は再生木の調査数値を含む。												